２０２３年度 第１回 全学協議会 代表者会議 開催

６月13日、２０２３年度第１回全学協議会代表者会議が朱雀キャンパスにて行われた。当日は大学、学友会、院生協議会連合会、教職員組合、オブザーバーとして立命館生活協同組合から代表者が出席した。

第１議題では、Ｒ２０３０チャレンジ・デザインの実現への展望が発表された。２０３０年に向けて本学が目指すべき姿として社会共生価値創出に向けた次世代研究大学の実現、イノベーション創発性人材の輩出が挙げられた。これらの目標について徳田昭雄副総長は、多様な背景を持つ人がつながる場を提供し、学部・研究科の枠を越えた総合知を発揮することでアプローチしていくとした。一連の説明を受け、学友会学園振興委員長の桑原大空（ひろたか）さん（理工４）は次世代研究大学における学部生の位置づけについて質問。伊坂忠夫副総長は「大学は皆さんがわくわくしながら探求できる環境をできるだけ用意しますので、学部生の皆さんには、その中で周りの仲間を巻き込みながら、より大きな探究のうねりを起こしてもらいたい」と回答した。

質問に回答する伊坂副総長

第２議題では来年度の学費について意見交換がなされた。始めに奥村陽一常務理事は来年度の入学生に対し、物価指数の上昇に伴い学費を改定すること、持続的に教学条件を維持・改善していくため教学維持改善費を５万円とすることに言及した。これに対し、学友会常任委員長の吉田龍太さん（文４）は５万円という数字をこれからの教学の維持改善に対する期待を担保するものであると認識を示した。さらに、学友会と大学との新たな議論のベースとなる「学園共創活動」の考えを共有し「金額も含めて、その中身がどうなっていくのかについての議論を継続していきたい」と今後を見据えた。

学費への考えを述べる吉田常任委員長

映像自に聞く OIC 移転

本学映像学部と情報理工学部が来年４月より大阪いばらきキャンパス（ＯＩＣ）へ移転する。これについて、映像学部自治会（以下、映像自）に実情を聞いた。映像自は学生の意見を集め、本学と学部生の橋渡しを担っており、６月８日には移転にまつわる説明会を実施した。

移転に関して、過去のアンケートで要望のあった作業用スペースの設置をＯＩＣの新しい棟へ決めるなど、学生の意見が取り入れられている。取材に応じた映像自副委員長の宮島悠帆さん（映像４）は「ＯＩＣに移っても撮影行為がきちんとできるのかなどといった話はさせてもらっている」と話す。

建設が進むＯＩＣ新棟

学生に対して「説明が不足しているせいか、うわさ話を信じているところがある。まずは一次ソースを確認してほしい」とし、冷静に議論するよう求めた。映像自は例年、学生に対するアンケートを行っており、移転後の生活における不満や要望なども調査している。宮島さんは「大学に声を伝える場はある。そこに乗せてもらえば」と話した。

（小室）

いばらき×立命館 DAY2023

５月21日、大阪いばらきキャンパス（ＯＩＣ）で「いばらき×立命館ＤＡＹ２０２３」が開催された。本学と茨木市が共催する本イベントは、本学学生や地域住民、企業、団体が一堂に会する地域交流イベント。新型コロナウイルス感染症が５類感染症へ移行した影響で４年ぶりにキャンパスを全面開放した。

本イベントのサブタイトルは「OIC EXPO」。２０２５年の大阪・関西万博に向けて機運を高めることがテーマだ。本イベントでは大阪・関西万博テーマ事業プロデューサーの中島さち子氏らによる「五感協奏スペシャルライブ」をはじめ、万博学生委員会による大阪・関西万博を見据えた多彩な企画が見られた。また学生・自治体・企業などにより合計１５２もの企画が催され、体験企画や展示、ステージ企画に参加する来場者は盛り上がりを見せた。

ＯＩＣ地域連携課の山本貴之さんは、本イベントを仲間づくりや出展（出店）を通じて仲間との「協働」の大切さを体感し、今後の学生生活を有意義に過ごすきっかけにしてほしいと語る。山本さんは学生に「充実した学生生活を送るには、時間を無駄にせず仲間と切磋琢磨しながら、色々なことに挑戦することが大切。それらの経験から、思い描く未来や夢を実現するための知識や教養・技能・社会性などを身に付けてほしい」と語った。

（稲垣）

当日の来場者数は２万人以上に上った（写真はＯＩＣ）

キャリアセンターに聞く 就活動向２０２３夏

２０２４年卒の学生を対象とした新卒採用選考活動が６月１日に解禁された。それに伴う本年度の就活動向と、新設されたオンライン選考用個室ブースについて、本学キャリアセンターに取材した。

衣笠キャリアオフィスの松尾憲太郎さんは「昨年度に比べて企業の大卒求人倍率は上昇している」と話す。コロナ禍で採用を控えていた業界・企業でも採用意欲が高まっており、売り手市場の傾向が強いそうだ。

また、キャリアセンターは本学父母教育後援会の支援を受け、４月よりオンライン選考用個室ブースを学部が設置されている３キャンパスに加え、大阪梅田キャンパスに設置した。面接のオンライン化が進む一方、学内で受けられる環境が限られていたことが設置理由だという。ブースの利用はオンラインで予約可能だ。

最後に松尾さんは、２０２５年卒の学生に対し「希望するインターンシップなどに参加できないからといって、焦る必要は全くない。相談したいことがあれば気軽にキャリアセンターを利用してほしい」とエールを送った。

新設されたオンライン選考用個室ブース

立命館大学新聞

発行所 立命館大学新聞社
発行人 奥野 泰生
〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1 立命館大学学生会館 BOX316
075-465-8253（内線 2160）
〒525-8577 滋賀県草津市野路東 1-1-1 立命館大学セントラルアーク 4F
〒567-8570 大阪府茨木市岩倉町 2-150 立命館大学 A 棟北ウィング（AN）3F Student Lounge 内
email:info@ritsumeikanunivpress.com

立命館大学新聞社 RITSUMEIKAN UNIV PRESS
www.ritsumeikanunivpress.com
立命館大学新聞社 検索
TEL 075-465-8253
MAIL info@ritsumeikanunivpress.com
Twitter @Rits_Press
Facebook www.facebook.com/ritspress/

７月号

本号の紙面

就活動向 ２０２３ …１面
映像自に聞くＯＩＣ移転…１面
警備ＤＸ ＯＩＣに導入…２面
レストランカルム 閉店…２面

海神

小学１年生の頃、授業でアサガオを育てた。一人一つ栽培キットをもらい、毎日世話をした。だんだんと愛着が湧いてきて、芽が出た時は一日中喜んでいた記憶がある。アサガオの成長は想像以上に早く、青々としたツルはすぐに支えの棒を覆い隠した▼夏休み前になると、友達のアサガオはきれいな花を咲かせるようになった。焦りを感じつつも、私の相棒ももうすぐだと健気にその日を待っていた。しかし、そんな思いとは裏腹に、待てど暮らせど咲く気配がない。そのまま夏休みに入り、その日は来ないまま休みもすぐに終わった▼幼いながらに諦めがついてきた頃、その日は突然訪れた。いつものように水やりをしようとしたら、私のアサガオだけ20近くの花が咲いており、誰よりも立派な鉢になっていたのだ。飛び上がるほど驚き、うれしかった▼そんな記憶に浸りながら、ふと高校生の自分を思い返す。少し背伸びをして入学した進学校では、周りについていけず、いわゆる落ちこぼれだった。何をやっても上手くいかなかった。もう同じ思いはしたくないと、大学では色々なことに手を出した。新聞社に入ったのもその時だ。毎日必死だが、高校の時のようなつらさはなく、むしろ幸せさえも感じる。あのアサガオのように、焦らず、自分のペースで成長していけばいいのだと思う。うまくいかなくても、その頑張りはきっといつか花を咲かせ、気長に見守ってくれた人たちを喜ばせるだろう。

（西澤）

内定獲得の決め手は“さわやかな笑顔”！

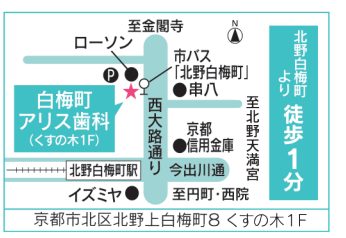
人は見た目が9割!?
ホームホワイトニングでポイントUP!
ホームホワイトニングの特徴
自宅で手軽に行える
歯列全体に使える
通院回数が少ない
お気軽にご相談ください!

歯の変色や歯茎の黒ずみが気になる方
審美歯科
希望に応じて様々な治療法をご提案

すきっ歯など歯並びをきれいにしたい方
歯列矯正
カウンセリング無料！即日見積もり

前歯を治療するだけでも、印象はグッと変わります！
面接試験での好印象のポイントは、①清潔感②ハキハキとした受け答え③明るい笑顔。「歯の黄ばみ」「歯茎の黒ずみ」「虫歯の治療痕」などを気にして、無意識に口元を隠すような仕草は、面接官に自信なさげな印象を与えてしまいます。社会人になると、なにかと忙しくなるのもあり、ぜひこの機会に治療して、白い歯&きれいな口元を手に入れましょう。

海外では歯並びが悪いことが、マイナスイメージに
国際的に活躍したい人には、矯正治療がおすすめ。欧米では歯並びを整えることは、大切なマナーでもあり、面接時のチェックポイントにする企業も増えているとか…。グローバル化が進む中、きれいな歯並びは一生の財産になります。歯の裏側に付ける目立たない矯正装置もありますので、お気軽にご相談ください。



京都市北区北野上白梅町8 くすの木1F

白梅町アリス歯科医院
アリスデンタルクリニック グループ 京都（四条大宮・白梅町）東京・名古屋
まずは気軽にご相談ください
075-462-8211
無料カウンセリング 受付中
http://www.alicedental.jp/

大阪大学歯科部医師チームによる最先端の治療 歯の黄ばみ 歯茎の黒ずみ すきっ歯 ガチャ歯

社説

大学は授業取り扱いの見直しを

本学は、台風などの自然災害により気象警報が発令された場合の授業の取り扱いをキャンパスごとに定めている。

衣笠キャンパスの場合、京都市内に乗り入れるＪＲ（大阪―草津間）・阪急（梅田―河原町間）・京阪・近鉄の４交通機関のうち、３つ以上が不通の際に休講となる。びわこ・くさつキャンパスの場合、ＪＲ（京都―米原間）が不通の際に休講となる。大阪いばらきキャンパスの場合、ＪＲ（大阪―草津間）および阪急（梅田―河原町間）の両方が不通の際に休講となる。

気象警報発令時における現行の取り扱いを他大学と比較すると、その基準に多少の差異はあれど、とりわけ本学では休講基準が厳しい。果たして多くの学生の理解を得られるものだろうか。

近隣にキャンパスを構える同志社大学今出川校地では、阪急・京阪・近鉄・ＪＲのうち、２つ以上が同時に不通（全面または部分を問わず）の場合に休講となる。また関西大学千里山キャンパスでは阪急・ＪＲのどちらかが全面運休であれば休講となる。両大学とも本学の基準に比べ、早い段階で対応しやすい。

課題は休講基準の厳しさだけではない。本学はコロナ禍を経て、通学を必要としないオンライン授業・オンデマンド授業など教学のＤＸ化を進めている。しかし現行の取り扱いでは、それらを考慮した記述がなく、天候の影響で対面授業に参加できない場合や、授業後帰宅できないといった状況に陥る可能性がある。ウィズコロナの今だからこそ、ＤＸ化に対応して授業の取り扱いの基準を変化させることで、学生は「安全・安心な学習環境」を確保できるのではないか。

遠方から通学する学生の中には登下校への不安を抱える学生も存在する。気象警報発令時の授業の取り扱いについて、安全かつ早期対応が可能な基準を設けることで、学生の学習環境はより向上する。時代に即した安全な基準であるかどうかについて、再検証する必要があるのではないか。

キャンパスアップデート

警備ＤＸ@ＯＩＣ

本学は、ＡＩやロボットを活用した警備システムを大阪いばらきキャンパス（ＯＩＣ）に本格導入した。実装されたのは、株式会社アジラ（東京都町田市）が開発したＡＩ警備システム「アジラ」とSEQSENSE株式会社（東京都中央区）が開発を手掛けた自律移動型警備ロボット「ＳＱ－２」の２つ。本学の基本計画に基づく安全・安心に学べる環境整備の一環として、キャンパスのＤＸ化が進められた格好だ。

今回導入された「アジラ」はキャンパス内の防犯カメラと連携し、不審人物の早期発見や転倒事故などへの迅速な対応を可能にする。「ＳＱ－２」は高度な周辺環境認識能力を備え、階をまたいだ巡回や長時間の立哨を行うことができる。

ＡＩ警備システム「アジラ」はキャンパス内の防犯カメラと連携する

導入の背景には、ＯＩＣならではの特徴がある。本学は、２０２４年の映像学部・研究科、情報理工学部・研究科の移転による既存学部との融合・発展を「新展開」と位置付け、ＯＩＣのソーシャルコネクティッド・キャンパス化を目指すとしている。また、先日開催された「いばらき×立命館ＤＡＹ２０２３」では２万人を超える来場者数を記録するなど、多様なステークホルダーが往来する。〈本紙一面〉こうした塀のないキャンパスとして「地域社会連携」を掲げるＯＩＣでは、ＡＩやロボットによる警備ＤＸを通じて、さらなる安全性の向上が求められる。

ＯＩＣ地域連携課の山本貴之さんは、全国に先駆けたＤＸ化の取り組みはキャンパスアップデートの一部に過ぎないと指摘した上で「ＯＩＣ新展開は全国から注目されている。もう一段上の安全・安心を確保するとともに、引き続き学生がワクワクできる環境づくりに取り組んでいきたい」と展望を述べた。（小野、小林）

ＯＩＣを自動で巡回する自律型警備ロボット「ＳＱ－２」

末川記念会館　レストラン

カルム

４０年の歴史に幕

立命館生活協同組合（以下、立命館生協）は「末川記念会館レストランカルム」（以下、カルム）を７月31日で閉店することを発表した。カルムは衣笠キャンパス末川記念会館に位置するレストランで、１９８３年11月にオープン。教職員の落ち着いた環境で食事をしたいという要望から生まれたカルムは、学生を対象とした生協食堂とは異なる雰囲気で愛されてきた。

しかし近年は、新型コロナウイルス感染症の影響でオンライン授業が増加し、主な利用客であった教職員の来店数が減少。それに加え、フルサービスのため人件費がかかることなどカルムならではの課題が発生した。また、食堂よりも高い価格設定により、学生向けに転向することも難しく、２０２３年をもって40年の歴史に幕を下ろすこととなった。

カルムの店長を務める、立命館生協の的崎裕美さんは「久しぶりにキャンパスに戻ってきた卒業生が来店し、思い出を語り合う場として利用されることも多かった。母校に帰ってきたとき変わらない場所として、40年間あり続けたカルムを終わらせてしまうことは悲しい」と閉店への思いを語った。同じく立命館生協の風折昌樹さんは「カルムは閉店してしまうが、キャンパス移転などを鑑みて、より生協の組合員に還元できる運営を心掛けていきたい」と前向きな姿勢を見せる。

カルムでは、閉店に対する思いをつづったコメントや思い出の写真を募集している。風折さん、的崎さんは「来店されたことがある方も無い方も、ぜひ最後に足を運んでみてほしい」と笑顔で語った。（三好、吉江）

多数のコメントが寄せられているカルムありがとうプロジェクト

大学野球関西オールスター５リーグ対抗戦

関西学生野球連盟Ｖ５

本学の竹内がＭＶＰに輝く

中越えに先制２ランを放った竹内

大学野球関西オールスター５リーグ対抗戦が６月23日から25日にかけてわかさスタジアム京都（京都市右京区）で行われ、本学硬式野球部が所属する関西学生野球連盟が、５大会連続となる優勝を果たした。

同大会では、リーグを代表する注目選手で形成された選抜チーム同士の対抗戦が行われる。本学硬式野球部からは谷脇弘起（産社４）、桃谷惟吹（産社４）、表悠斗（産社４）、西村唯人（文４）、竹内翔汰（経営３）、有馬伽久（産社１）の６選手が選出された。

25日に行われた近畿学生野球連盟との準決勝では、本学硬式野球部のエース谷脇が先発した。４回３失点と苦しいピッチングになったが関西学生野球連盟が猛打で圧倒し勝利。26日の関西六大学野球連盟との決勝戦では、１回表に４番の竹内が直球を完璧に捉え先制の２ランを放つ。９回裏には１回生ながら選出された有馬が登板し優勝を決めた。

トレーナーにアドバイスをもらい、バットを高く構えるフォームに変えたという竹内は計４安打５打点の活躍を見せ、この大会の最優秀選手に選ばれた。竹内は「試行錯誤してやった結果が出た。ドラフト１位指名を目指しているのでまだまだ」と振り返った。

優勝した関西学生野球連盟には、関西地区代表決定戦で１回勝利することで明治神宮野球大会出場へとつながるスーパーシード権が与えられる。（井上、藤田楓）

優勝決定後マウンドに駆け寄る選手たち

生協総代会　開催

立命館生協総代会（以下、総代会）が５月27日に衣笠キャンパス以学館ホールで開催された。総代会は立命館生協の株主総会にあたる、最高議決機関。立命館生協は１年間の利用実績の振り返りや今後の運営方針を発表し、組合員の代表として選出された総代は立命館生協へ意見表明を行った。

意見表明を行った総代には本学学生のみならず、本学院生や立命館アジア太平洋大学に所属する学生からも意見が寄せられた。本学学生からは、食堂の価格改定に対するポイントアップキャンペーンの提案や生協アプリの多言語対応を求める声が複数寄せられた。

総代による意見表明の後、議案承認が行われた。書面による出席が57名、当日の出席者が52名で総代会の成立が確認され、「昨年度事業報告」「本年度事業計画および予算決定」「立命館生協２０３０Ｇｏａｌｓ」の策定と「役員報酬決定」の４つの議案が採択された。

総代会の終わりには、本年度の生協役員の選挙が行われ、候補者全員が信任投票により当選とした。昨年度の学生理事を務めた岡本都さん（産社３）は「今まで、書籍の購入や食堂を利用する際に何気なく利用していたが、学生理事を１年間務めて、学生の皆さんが生協を動かしていることを実感した。生協の活動がこれからも続いていけば、より必要とされる時代がやってくると思う」と学生参加の意義を語った。（中村）

生協総代会２０２３にて議決がとられる様子